

## 中国放鳥の標識鳥 日本での確認あいつぐ

中国の標識事業で足環をつけられたズグロカモメとミヤマホオジロが日本で確認された。中国でカラーフラグを付けられたズグロカモメが日本で観察された例などは過去にあるが、捕獲や死体による足環の確認は初めて。近年、中国では標識調査が急速に発展しており、日本の関係者も日中の渡り鳥の調査の進展に大きな期待を抱いている。

ズグロカモメは2004年3月 ヤブサの巣の下で拾得された足に11日に広島県豊田郡安芸津町のハ ついていた足環から判明したもの

で、中国の標識調査センターに問い合わせたところ、2003年6月24日に遼寧省盤錦市双台河口で標識されたものとわかった。ミヤマホオジロは、2004年4月24日に北海道利尻島で協力調査員の小杉和樹さんによって捕獲され、足環確認の後再放鳥されたもので、問い合わせの結果、2003年10月27日に遼寧省大連市で放鳥されたことがわかった。これらの個体は、中国の標識調査事業による足



環が日本で観察以外の方法で確認された1例めと2例めになる。  
尾崎清明標識研究室長は「中国の標識調査は近年、年間の新たな放鳥数が20万羽を越えて日本の新放鳥数を超えた。標識調査は一国のみで行なってもだめで、隣接した諸国で盛んになってこそ成果がある。日本のバンダー(協力調査員)にも大きな励みになるだろう」とコメントしている。